

45 機密情報を USB メモリに保存して持ち出した

CASE

金曜日の夜。「せっかくのデートなのに……」と大山さんは腕時計に目をやりました。すでに7時を過ぎ、約束の時間ぎりぎりです。

上司から「月曜日の朝までに」と頼まれた顧客名簿の整理作業は、まだ2時間ほどはかかりそうです。

「土日に家でやればいいや」

そう決めた大山さんは、私物のUSBメモリに名簿をコピーしました。



あなたの考えはどっち?

- A** 管理さえ気をつければ機密情報を持ち出しても構わない。
B 簡便なツールであっても、機密情報を持ち出すべきではない。

USBメモリは大容量のデータを収録できるコンパクトなツールで、ポケットやバッグなどに入れて手軽に持ち運べる便利さから、大山さんでなくても、データをコピーして、家で作業の続きをしようと考えたくなるでしょう。しかし、**B**が正しい考え方です。

社外に持ち出せば、紛失や盗難、ウイルス感染の危険があり、悪意の第三者によってそのデータを悪用されないとも限りません。また、個人情報が出れば大きな社会問題になり、会社の信用を損ねる結果になります。いくら便利なツールでも、情報の個人的な持ち出しは絶対にしないでください。USBメモリの使用禁止や、パソコンにデバイスコントロール機能を付けるなどの対策を行なっている会社もあります。

60 **コラム** デバイスコントロール機能とは、USBメモリを接続してもパソコンが認識しない機能で、データをパソコンから取り込めない。

46 部下のソーシャルメディアでの発言を管理すべき?

CASE

梨田課長は、得意先の担当者から「あなたの課の業績、絶好調なんだってね」と言われ、どうして知っているのかと驚きました。事情を尋ねると、「おたくの社員の方がツイッターに書き込んでいたのを読んだもので」という話です。

会社に戻ってその社員に厳しく注意すると、「大変よい話だったので紹介したのですが……」と申し訳なさそうに言いました。



あなたの考えはどっち?

- A** 社員の個人的な書き込みまでは管理できない。
B 会社のガイドラインに沿って、普段から社員を教育すべきだ。

ツイッターやフェイスブックなどソーシャルメディアにおけるネット上の発言は、いい意味でも悪い意味でも非常に大きな影響力を持ちます。ネット上の発言が原因で、会社がトラブルに巻き込まれる場合もあることから、**B**のように、会社が「ソーシャルメディア利用ガイドライン」などを作成し、勉強会や研修会を開いて、それを遵守し、節度を持って行なうよう部下に周知徹底するのが理想です。会社がガイドラインを未作成であれば、重要性を鑑みて、作成を提案するのもよいでしょう。

プライベートであっても、書き込みの内容によって会社の社会的評価に重大な悪影響を及ぼす場合は、就業規則違反として懲戒処分の対象になることも、部下に伝えておきましょう。